

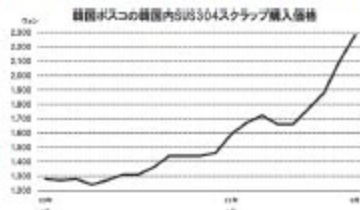
ス
テ
ス

ポスコ9月価格は大幅続伸2,280ウォン

8年ぶり高値を再度更新

韓国ポスコは10日、9月の韓国国内SUS304スクラップの購入価格を前月比180ウォン上げの2,280ウォンに改定した。円換算では1^{kg}あたり214円見当。直近のLMEニッケル価格の一段高と需給タイト感を加味した措置と見られ、4カ月連続の大幅上昇となった。また、前月に付けた2,100ウォンを上回り、8年ぶり高値を再度更新する動きとなった。

輸出市場の指標のひとつポスコ価格が大幅続伸したことで、目先の内外市況はなお強気配を維持する見込み。韓国ポスコも直近はスポット調達を増やしているとされ、韓国国内でも目立つ発生薄と荷動きの鈍化で、日本玉への調達姿勢を強めている模様だ。ある商社筋は「アジア圏のSUS304スクラップの輸出価格は2,200^{ドル/ト}付近まで上昇していると聞く。韓国のみならず台湾やインドの需要家も、日本玉の引き合いを強めたまま



だ」と指摘する。

一方、国内市況は集荷競合の過熱感がなお継続。市中の荷動きは一段と鈍化しており、国内直納筋らと輸出大手の間で高値を探り合う動きが根強く残る。加えて、指標となるニッケル価格が14年5月以来およそ7年ぶりに2万^{ドル}台を突破。市況はなお先高含みの展開だ。

なお、SUS316の9月価格はモリブデン相場の急伸を映し、前月比240ウォン高の3,570ウォン(335円見当)。SUS430は横ばいの710ウォン(66円見当)だった。

LME相場、他(現地9日)

	9日前場	前日比(%)	在庫量	前日比	前月平均
銅	9,356.50	101.50	233,950	-3,750	9,357.19
鉛	2,324.00	-15.00	52,325	-50	2,428.52
亜鉛	3,072.00	21.00	229,250	-2,150	2,988.90
アルミ	2,817.00	42.50	1,325,225	-9,000	2,610.64
ニッケル	20,240.00	520.00	181,368	-2,310	19,160.43
錫	33,825.00	1,025.00	1,215	-30	35,252.62
金(NY)	1,800.00	6.50	-	-	1,788.37
原油(NY)	68.14	-1.16	-	-	67.71
銅TTSP(円)	110.78	-0.45	-	-	110.85

金は11tray ounceあたり、原油は1バレルあたりの21年10月期先物価格は日本時間9月10日のTTSP

9月の銅・アルミスクラップ市況見通し

非鉄金属リサイクル全国連合会 橋本健一郎会長(橋本アルミ取締役)



9月のLMEと為替は、デルタ株によるコロナ感染拡大動向と米中の景気動向に左右されそう。コロナ感染については、ワクチン接種の進展により治まっていた欧米諸国が、新たな変異ウイルス「ミュー株」で再び感染拡大の危機に陥っている。ただ、今のところ感染力は未知数でデータもないが、ワクチン接種の更なる進展から感染拡大は防げると見ている。

一方、米中の景気動向に関しては、直近の景気指数が両国とも事前予想を下回ったほか、中国の8月財新中国製造業購買担当者景気指数(PMI)が昨年4月以来となる節目の50を割り込んだ。追加的景気対策が無ければ、失速感が強まると見ている。

それらを踏まえ、9月のLME銅価格(セトルメント)は9,000~10,000^{ドル}、銅建値は102~115万円/ト程度。LMEアルミ価格は2,600~2,750^{ドル}のレンジで、スクラップ購入価格は前8月最終価格より据え置きから+5円程度とそれぞれ予測している。また、為替は

1^{ドル}=109~111円(1カ月間TTM)程度を想定している。

国内指標を見ると、7月の伸銅品生産量は前年同月比48.8%増加した。自動車メーカーが計画する9月からの挽回生産に向けた在庫積み上げの影響が大きい。更に増加するのか注目したい。アルミ二次地金・同合金地金等の7月生産実績は前年同月比37.3%増の7万2330トで9カ月連続のプラスだった。今後も増加が続くのか注視する必要がある。

スクラップの景況感としては、銅スクラップについては流通在庫(一次問屋)が銅建値111万円の高値から一時106万円まで急落。その後110万円まで回復したものの、発生は無く各問屋筋の在庫は薄い。需要については、中国コロナ感染拡大による部品調達の遅れなどから自動車生産は減少傾向にあるが、今のところメーカーの買い気は強く高値買いの傾向が続いている。

アルミスクラップについては、LMEアルミ価格が前月比一段高の2,600~2,700^{ドル}近辺で高止まりしていることを踏まえると、玉不足は続くと思われる。需要については、自動車生産は減少傾向にあるが、合金メーカー各社の原料在庫は希薄で買い気は強いままだと言える。